

2 各学年

	重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
1 学 年	①基本的生 活習慣の確立 ②確かな基礎 学力の養成 ③主体性、探 究心の醸成	遅刻、早退、欠席をせ ずに、集中して授業に 臨めるよう指導する。	宅習記録を使用し、生徒の生活習慣の乱れや、気持ちの変化を早期に とらえ、適切な指導、対応により活気ある学校生活へとつなげる。	A	A	
			きまりと時間を守ることの意義を浸透させ、規律正しい高校生活を送 らせる。	B		
		学習習慣を早期に確立 させ、授業をととし て、基本的知識とその 活用能力を養成する。	授業の大切さをくり返し指導し、予習・授業・復習（学習到達度確認 問題）の学習スタイルを定着させる。	B	B	A
			自宅学習 4 時間以上の習慣を定着させる。	B		
			学習到達度確認問題（小テスト）により基礎・基本の定着を図る。	B		
			1 年生第 1 回スタディーサポートから 2 年生第 1 回スタディーサポート にかけて、GTZが上昇した生徒が80%以上であることを目指す。	A		
		将来の目標や理想像を 自ら設定し、自分の人 生を自分でデザインし ていく能力の基礎を養 う。	新入生研修、進路説明会や各種講演会をとおして、自己を見つめ、将 来について考える機会を年間を通じて計画的に設ける。	A	A	
		生徒理解を深めるとと もに、学年全体で情報 を共有し、保護者との 連携を図る。	個別面談を年間少なくとも 3 回実施し、予定されている三者面談に加 え、必要に応じて保護者への連絡、面談を行う。	A	A	
2 学 年	①自己のあり 方、生き方を 決定できる主 体的な人間を 育てる。 ②課題解決に 向け協働し、 多様な他者と 共生できる人 間を育てる。 ③自ら学び続 け、その知 識・情報を活 用できる人間 を育てる。	他者と協力して物事に 取り組む姿勢を身につ けさせ、皆で頑張る雰 囲気を醸成する。	学校行事や生徒会活動において、中心学年としての役割を果たし、他 者と協力して物事に取り組む姿勢を育む。	A	A	
			集団の一員である意識を持たせ、身の回りの整理整頓を徹底させ、品 位ある服装・態度を心掛けさせる。	A		
		授業第一主義により、 生徒の学力を向上を図 る。	授業第一の態度を育て、生徒が積極的に授業に参加する。	B	B	A
			自宅学習平日 4 時間以上の習慣を徹底させる。	B		
			学習到達度確認問題（小テスト）により基礎・基本の定着を図るとと もに、発展的な内容についても理解させる。	A		
			積極的に英語検定に挑戦させ、2 級取得者20名以上を目指す。	A		
			進研模試において、 ①平均偏差値55以上をめざす。 ②偏差値58以上の生徒が30人以上になることをめざす。	B		
		自己の高校卒業後の進 路を意識させ、意義あ る高校生活を送る動機 付けとする。	進路研究(学問研究・大学研究等)を含む進路学習を年間にわたって系 統的に行う。	A	A	
		生徒理解を深めるとと もに、学年全体で情報 を共有し、保護者との 連携を図る。	個別面談を年間 3 回実施し、予定されている三者面談に加え、必要に 応じて保護者への連絡、面談を行う。	A	A	

	重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
3 学 年	①自己のあり方、生き方を決定できる主体的な人間を育てる ②課題解決のために協働し、多様な他者と共生する人間を育てる ③自ら学び続け、その知識・情報を活用できる人間を育てる	学力を向上させ、難関大を含む国公立大学等、自らの進路希望を達成させる。	生徒のやる気を喚起し、学力向上に資する授業を実践する。	B	B	B
			授業重視の態度を育て、出席率98%以上、年間皆勤者15名以上を目指す。	C		
			学習到達度確認問題（小テスト）により基礎・基本の定着を図るとともに、発展的な内容についても理解させる。	B		
			休日講習会、模擬試験、自習会、学習合宿などを実施し、基礎力・応用力を養成する。	A		
			大学進学率90%以上を達成する。	B		
		生徒理解を深めるとともに、学年全体で情報を共有し、保護者との連携を図る。	個別面談、三者面談を適切なねらいのもとで実施する。	B	B	
		生徒理解を深め、生徒の進路選択の手助けをする。	個別面談及び進路に関する検討会を、明確なねらいのもとで実施し、生徒の進路選択の手助けをする。	B	B	